

## 〈動向〉

# 難民問題への本学の取り組み－ 2016 年度－

舟木 讓

本『人権研究』「動向」において二回にわたり、本学が実施してきた「難民問題」啓発への取り組みを報告した。今年度もこれまで以上に、諸団体のご協力を得て、様々な活動を行う事ができた。ご協力をいただいた諸団体・関係者の方々に感謝をもって、以下に本年度実施された取り組みの概要を記すこととする。

最初に、「Meal for Refugees」を今年度も西宮上ヶ原キャンパスで開催した。これまで2012年度難民推薦入試制度で入学した学生が中心となって実施してきたが、当該学生の卒業に伴い、J-FUNユースの学生諸君が中心となってその活動を継承し実行する事が出来た。今年度も本学生協の継続的な協力の下、西宮上ヶ原キャンパスにおいて2016年6月20日－24日計5日間、提供を行う事が出来た。さらに今年度は、本学高等部の三年生二人が中心となり、全国の高校で初めて、「Meal for Refugees」に参加し、「特定NPO法人 難民支援協会」の皆様ならびに高等部食堂の皆様の協力のもと、「食を通じて難民問題を考えよう」の主題のもと、西宮上ヶ原キャンパスと同じ2016年6月20日－24日の5日間にわたって高等部食堂において実施することが出来たことは特筆すべきことである。なお、高等部では導入に先立ち難民に関する問題の啓発と本企画の意味について前述の3年生がプレゼンテーションを実施し、高等部における難民問題への啓発に努めている。

また今年度も「国連難民の日」を覚える形で、上ヶ原キャンパス開講の『「関学」学』春学期講義の

一回を「難民」問題に関するゲストスピーカーをお招きしての内容として実施した。今年度は2016年6月13日に野津美由紀氏（特定NPO法人 難民支援協会 広報部コーディネーター）をお招きして実施した。また、翌6月14日には、同氏によって社会学部のご協力の下「社会学部人権を考えるチャペル」においてメッセージが語られ、有意義な時を持つ事がゆるされた。

2016年度春学期に関しては、上述の企画ならびに講演会を実施したが、それと共に、一昨年度、難民問題に関心のある本学在学学生からの要望と協力の申し出によって実現した「UNHCR 難民映画祭」への協力として、昨年度は新しい枠組みとして「UNHCR 駐日事務所」より提案された「大学パートナーズ」として参加したが、今年度、参加学校の裾野を広げるため高校等にも門戸を広げた「学校パートナーズ」に枠組みが変わったことを受けて、その趣旨に大学として改めて賛同と協力の意向を確認した上で参加し、上映を行った。

特に本年度はこれまで本学の上映に際して様々なご助言とご協力をいただいていた今城大輔氏（UNHCR 難民映画祭プロジェクトマネージャー）に引き続きご協力をいただくと共に、本学主催「秋季人権問題講演会」の講師としてご来校いただき、直接同映画祭の目的と意味ならびに意義についてご講演いただき、その後映画の上映を実施する、ということが実現した。実施に当たっては、今年度も今城氏をはじめ UNHCR 駐日事務所と難民支援協会の

全面的なご協力をいただき、J-FUN ユース K.G に所属する学生らが大学と協力して西宮上ヶ原キャンパスと神戸三田キャンパスでの上映を実施した。以下にその内容を記す。

・「11th.UNHCR 難民映画祭」

学校パートナーズ上映

主催：関西学院大学、J-FUN ユース K.G

協力：UNHCR 駐日事務所

実施日：2016年11月24日(木)

11:10-12:40ならびに15:10-16:40の二回

開催場所：関西学院大学 神戸三田キャンパス  
コモンズ シアター

上映作品：「ストームストーリーズ  
～戦禍を逃れた子どもたち～」

実施日：2016年11月29日(火) 13:30-15:00

開催場所：関西学院大学 経済学部チャペル

上映作品：「ストームストーリーズ  
～戦禍を逃れた子どもたち～」

・関西学院大学主催「秋季人権問題講演会」

主題：「映画を通じて難民を知る」

講師：今城大輔 氏

(UNHCR難民映画祭プロジェクトマネージャー)

映画上映：「今はまだ、帰れない君へ」  
(2016年「難民映画祭」上映作品)

第一回実施日：2016年11月21日(月) 15:10-16:40

開催場所：西宮上ヶ原キャンパス  
B号館 203号教室

第二回実施日：2016年11月22日(火) 9:00-10:30

開催場所：神戸三田キャンパス  
II号館 201号教室

以上の内容で実施され、合計で約700名近い視聴者を数えることができた。また昨年度に続きこの開

催を希望し積極的な行動を起こしてくれた学生諸君が、三日間で述べ10名の学生ボランティアとして献身的に協力してくれたことにより、次年度以降も同「映画祭」への協力体制がととのっていく可能性が見出されたことは大きな収穫であった。

以上、本年度も世界の情勢が難民に関して厳しい状況が続く中、啓発のため本学では高等部も含めて様々な取り組みが行われてきた。ただ、日本における難民に関する対応は未だ厳しい現実が続いている。実際2015年の難民申請は7586名にのぼるが、難民認定を得た方は27名にとどまり、2016年においては10901名の申請があったにも関わらず認定者はわずか28名にとどまっている。ただ、前回の「動向」で報告した António Guterres 前国連難民高等弁務官が国連総長に就任されたことは一つの大きな希望と言えよう。また UNHCR 駐日事務所代表として本学に積極的な協力を続けて下さっていた Michael Lindenbauer 氏が2015年末にブリュッセルに異動されてから空席であった駐日代表であるが、このたび新たに Dirk Hebecker 氏が5月に着任され、2016年10月24日に本学に宮澤哲氏 (UNHCR 法務部法務アソシエイト) と共に来校され、神余隆博副学長、谷井信一国際連携機構事務部次長と小職がお迎えしてこれからの関西学院大学の難民問題への貢献方法について意見交換を行ったことも付記しておく。さらに「難民映画祭」への協力校を昨年度の「大学パートナーズ」という枠組みから「学校パートナーズ」というかたちとなった事を受け、次年度は本学の大学以外の関係校との協力の可能性が広がったことでさらなる啓発・協力の機会が生まれたことも喜ばしいことである。また、2016年12月付で「UNHCR 難民映画祭」への協力など本学のこれまでの難民問題への協力に対して、「UNHCR 駐日事務所」より本学に対して感謝状をご送付いただいたことを最後に付記しておく。

こうして今年度も多くの教職員、学生諸君の協力があり、学内外の多くの方々の暖かなご協力によってプログラムの実現となったことに改めて心からの

感謝の思いを込めて、今回の報告とさせていただきます  
たいと思う。